

交流協会 学生交流事業

交流協会では、日本と台湾との若者世代の交流促進のため様々な招聘・派遣事業を実施しています。平成23年12月8日から12月17日まで台湾で東アジア地域の国際政治・国際法・国際経済・安全保障に関する研究を行っている台湾人大学院生20名を現代日本社会や文化に対する理解を一層深めるために東京都・群馬県・愛知県・京都府に招聘しました。

東京では日華議員懇談会や防衛省研究所等の公的機関を訪問しての意見交換、群馬県では日本人家庭でのホームステイや温泉体験、名古屋大学及び立命館大学では各自の研究論文を発表し討論する学術交流会を行い、文化体験では座禅、着物の着付け等を体験し短期間の日程ながらも多くのプログラムを通じ学術や文化・習慣に触れることが出来たようです。

今回招聘した20名のうち、男性2名女性4名の訪日報告書を2回に分けてご紹介致します。

平成23年度 台湾大学院生訪日団 感想

淡江大学 アジア研究所
日本研究組修士2年
曾郁茹



文章の始まりとしてはありきたりですが、やはり今回の活動に参加する機会を与えてくださった交流協会及び団長のK教授に感謝すると共に、交流協会がこの10日間の日程を周到に手配してくださったことに感謝致します。2度目の日本訪問の経験を通して、日本の文化、風土・民俗をより深く理解することができました。もちろん、最も貴重な経験は日本の大学院生と各自のレポート発表を通じて学術交流を行い、各自の見解を交換することができたことです。自分にまだ努力しなければならない点があることも分かり、視野が一層広がりました。

まず、1日目の日程は、元々見る予定だったスカイツリーが雨による視界不良のため、急遽お台

場のショッピングモールに変わりました。夜は交流協会東京本部の歓迎会でした。K1部長及び他の職員が挨拶の時に、私達の活動の目的は台湾と日本の交流に架け橋を掛けることだと仰いました、最後のレポート発表も頑張るよということも言い忘れませんでした。また、この日は私にとって初めての日本の居酒屋文化体験でしたが、日本のサラリーマンたちが一日の忙しい仕事を終えた後、この暖色系の明かりの空間の中でビールを1杯飲めば、疲れた心身をリラックスさせ、引き続き翌日の挑戦を迎え入れることができることが分かりました。

2日目は、頭を酷使した訪問日程でした。まず朝は江戸東京博物館を見学しました。中に入った瞬間、あたかも歴史の中に入り込んだように、以前教科書の写真で見た人物や事物が目の前に現れました。本当に視野が広がり、日本の人文・歴史をまた少し理解したように感じました。

午後は憲政記念館を見学し、日華議員懇談会を訪問しました。幸いにも座談会において、日本で現在論争が続いているTPPの問題について発表することができ、議員の方々の比較的保守的な反対意見と政府への提案を聞くことができ、とても

参考になりました。今後もこの問題に引き続き関心を払っていきたいと思います。

懇談会の後、防衛省防衛研究所を訪問しました。英語による簡単な紹介をしてくださった後、グループに分かれて討論を行いました。

夜は日台学生会議の学生達と一緒に夕食を食べました。1日目と同じく居酒屋でした。夕食の雰囲気はとても賑やかで、私達は日本の大学生と楽しくお喋りし、連絡を取り続けるためにお互いのFacebookを交換しました。ホテルへ帰る途中、「歌舞伎町一番街」を歩きました。賑やかで騒がしい街に鮮やかな店が並び、俗に言うホストが道端で絶え間なく客引きをしている姿をしばしば目にしましたが、これも一種の異色の経験です。

3日目と4日目は私が今回最も期待していたホームステイです。群馬県は個人旅行をする際に普通はあまり考慮に入れない場所ですが、群馬出身の友人がいたため、ずっと群馬県を訪れてみたいと思っていました。この2日間、私達に群馬を紹介してくださった、仕事に対して真面目で、人に対して優しく親切な群馬県観光国際協会の国際観光部長に感謝致します。

ホストファミリーと顔合わせを行った後、私達はスターバックスに行き、コーヒーを飲みながら世間話をし、お互いの事を更によく理解しました。今回ホームステイに行ったHさんの家庭は3人家族で、典子さんという24歳の長女は私達と年



齢が近いので、すぐに打ち解けました。その上、その日はH家のお母さんが仕事で知り合った大学院生の晴美さんを連れて来たため、女4人でペチャクチャと休みなく話し、音楽や日本のドラマや台湾の事を話しました。H家のお母さんは以前台湾に行ったことがあり、鼎泰豊のショーロンポーが美味しいとずっと褒めていました。今度台湾に来る機会があるときは、私達が必ず沢山台湾を紹介することを約束しました。

ホストファミリーのお父さんとお母さんは仕事があったため、この日、私達（周芷羽さんも一緒に）は典子さん、晴美さんと一緒に彼女の会社の同僚が家で開いたクリスマスパーティーに参加しました。このような活動に参加したことがない私にとって、とても楽しい経験でした。私達をもてなしてくれたN₁さんは、私達のためにターキーなど沢山の食べ物を用意してくれました。最も素晴らしかったのは立体的なぬいぐるみのようなミッキーマウスのケーキで、出された瞬間、みんな驚いて、興奮のあまり沢山写真を撮り、ケーキもきれいに食べ尽くしました。この日のパーティーでは一足早くクリスマスの雰囲気と楽しみを味わうことができました。普通の友達のパーティーとは異なり、全員日本人という環境の中で、私達が自分のレポート内容について話したとき、彼女たちは自分の意見を述べてくれたことはとても参考になり、意外な収穫でした。

4日目の朝、ホストファミリーのお母さんは仕事があったため、朝食を食べた後、私達と別れました。お父さんのHさんと典子さんは私達を彼らが住んでいる伊勢崎市の市民公園に連れて行ってくれ、そこから遠くの方々の山々などの風景を眺めました。その後、いせさき明治館を見学しました。明治館の建物は元々病院で、現在は当時の病院の様子を展示している他、現地の有名な銘仙も展示していました。ガイドの紹介を通して、その建物の優れた発想だけでなく、銘仙織物の見分け方な

ども学びました。みんなで昼食を食べた時は、お別れの時間が迫っていて、ホストファミリーと抱き合うと思わず涙が溢れてきました。原口さんの今後群馬に来る機会があれば連絡をしてくださいという言葉聞いて、とても温かい気持ちになりました。私は日本との絆、思いを寄せる場所ができ、また再会できることを楽しみにしたいと思います。

続いて、富岡製糸場、達磨絵付けを見学しました。もちろん、先生の達磨には及びませんが、自分で一生懸命完成させたものなので、願い事が早く叶うことを願っています。夜は伊香保温泉の旅館での懐石料理を体験しました。初めて温泉を体験し、温泉に入りながら景色を眺めるのは格別だと感じました。

5日目は群馬から東京に戻りました。群馬と国際観光部長さんに別れを告げて、研究開発戦略センターを訪れました。その中で、日本が震災後に研究開発した機械商品について話が及びましたが、今回の震災からの復興は、日本ないしは他の国に天災の脅威やそれらに対していかに対処すべきか、この機会に現在の足りない点を見直し、良いものは更に良いものにすることなどを考えさせられました。夜は自由行動だったので、渋谷へ行き、日本の本場のラーメンを食べました。先輩と渋谷の街を歩き、のんびりしたひと時を過ごしました。



6、7、8日目のうち、2日間は名古屋大学及び立命館大学での発表でした。名古屋や京都へは新幹線で移動しましたが、東京のJRや地下鉄と異なり、通路は広く、シートも快適でした。2日間の発表が終わった後は、学校が懇親会を手配してくださり、学生たちと一層交流を図ることができました。レポートの発表以外に、このような交流も今回の訪問の最も重要な目的の一つだと思いました。この二晩の活動において、沢山の日本の優秀な大学生、大学院生と知り合い、レポートの発表内容、流暢な英語など彼らから多くのことを学び、自分の国際感覚が強まりました。将来は言葉や専門知識だけでなく、これらの優秀な人々を目標にして一層努力していきたいと思いました。

7日目は、アニメ「一休さん」に登場する有名な「金閣寺」を訪れました。百聞は一見に如かずというように実際に目にして驚きを感じた他、日本のお寺の建築の美しさと清らかで静かな雰囲気強く感じました。お守りも買ったので、この1年が健康で学業も順調に行くことを願っています。

9日目は最後の1日と言ってよいでしょう。私達が台湾へ帰りたくなるのを心配したのか、周到に座禅体験の予定が組まれていました。新鮮に感じた他、意外にも気持ちを静めることができました。冷たい風に吹かれて風邪を引きそうになりましたが、私達に座禅を教えてくれた住職の「時には心を悩ますときもあります。その時はこの方法を試して、座って心を落ち着かせ、平静を取り戻してください。そうすればどんなことでも順調に進むでしょう」という言葉を台湾へ帰っても忘れないでいたいと思います。

お昼は精進料理を体験しました。意外にもとても美味しかったです。午後は清水寺を散策し、用意してくださった和服を着ました。和服を着るとみんなとても綺麗で、自分も急に日本人になった



かのように感じました。このような恰好で商店街を歩き、清水寺の建築物や風景を眺めることができ、とても満足でした。夕食は、台北経済文化大阪事務所主催の送別会でした。一人ひとり自分の感想を述べて、涙を流している学生もいました。この9日間ずっと私達の面倒を見てくださったAさん、Nさん、T₁さん、また先生でもあり友人のようでもあるK教授も自分の感想を述べました。夕食は少し悲しいものの心温まる雰囲気の中で終了しました。翌日、訪日団は台湾へ戻り、今回の活動に素晴らしい終止符を打ちます。

最後に、台湾の優秀な大学院生、私達を引率してくれたK団長、全行程付き添ってあらゆる面倒を見てくださったNさん、Aさん、とても優秀な通訳のT₁さん、ホームステイ先のH家のお父さん、お母さん、典子さん、群馬県観光国際協会の国際観光部長、2日間お世話になったバスガイドさん、日本の大学院生など、すべて挙げられませんが、「一期一会」の気持ちで、多くの収穫を得ることができました。私は出会ったすべての人について、その出会い、交流、話した内容、一緒に過ごした時間など、私の生涯の最も大切な記憶として決して忘れません。

平成23年度台湾大学院生訪日団 感想

政治大学

日本研究修士学位課程1年

鄭雅馨



一、はじめに一全体の活動についての成果・感想

初めに、政治大学日本研究修士課程1年の学生に対し、今回の訪日活動の機会を与えてくださった交流協会に感謝致します。私達のような研究所に入ったばかりの、未熟な修士1年生でも学術という名の今回の交流活動に参加することができました。ぎっしり詰まった日程は10日間を大雑把に駆け足で回ることになるのではないかと心配しましたが、実際には日本文化をたっぷり、深く体験することができました。いくつかの体験は個人旅行ではできないものであるため、今回の交流団に参加することができ、本当に幸せに感じます。

私にとって、東京、名古屋、群馬、京都、大阪はどれも単独で一回の旅行の主演となりうる、何日も遊べる都市です。これらすべての都市が今回の目的地でした。通訳のT₁さんが言ったように、今回の訪日研修の目的は種を植えること、すなわち日本に対する好奇心、日本に対する好感を私達の心の中に芽生えさせることです。この目的からすれば、今回の活動は大成功だったと思います。短い10日間で、学術面にせよ、文化面にせよ、日本のおおよその姿を見ることができました。

どの日程も収穫がありましたが、紙面が限られているため、以下では「書かなければ惜しいと思う」部分についてのみ述べたいと思います。

二、群馬を好きになる—ホームステイ、富岡製糸場、達磨の故郷、伊香保温泉

「ここら辺は空き家がどんどん増えて来たわ」私が地域政策に興味があると聞くと、お母さんは

私に言いました。「若者はみんな都会で働くから、残された年老いた親は家で暮らして、親が亡くなった後は家が空いて…」彼女は笑いながら言いましたが、語気からは憂いを感じられました。

過疎問題は、日本の田舎にも存在する深刻な社会現象で、群馬も例外ではありません。水気が少なく乾燥しているためか、冬の群馬の田舎は雲一つない青空の晴天が続き、深呼吸をすると新鮮な空気の中に草木の香りがし、遠くを眺めると、山の頂が白い雲で覆われた浅間山がはっきりと見えました。T家はこのような素晴らしい場所にありました。夫婦2人の日常生活は充実していて活気に満ちており、社交活動に積極的に参加しているだけでなく（私達が家に到着すると、お父さんは待ちきれずに自分が参加した忘年会や祭りの写真を見せてくれました）、しばしば世界各国からの友人をもてなし、料理が得意で（お母さんだけでなく、お父さんも）、健康に注意を払い、休みの日はよく車で出かけるという完璧な老後の生活を送っていました。しかし、光の後ろには影もあり、薄っすらとした不安もT家の中に入ってきていました。

「ここは元々公共バスが通っていたのだけれど、



T家。70歳近い老夫婦。キリスト教徒。2人娘のうち1人はドバイで暮らし、もう1人は群馬の裁判所で書記を務める。私達が来たことでまた2人の娘が増える。市の中心部から車で1時間ほどの田舎で生活しているながら、これまで台湾を含む数多くの国々を訪れる。写真の中のお母さんは、この日、送別会と午後の国際交流会に出席するため、いつもより綺麗な服を着てきた。

みんな自分の車を持っているから、公共バスが次第に走らなくなったの」お父さんが車を運転しているとき、お母さんが振り返って私達に言いました。午前10時、道路沿いには営業している店がほとんどなく、私達が広い道路を通った時も、商店街のような感じでありながら人影がありませんでした。お母さんが説明してくれたところによると、道路の両側にあるシャッターを下ろした店は、まだ開いていないのではなく、すでに倒産したものでした。太陽の光がベージュのシャッターの上に降り注ぎ、暖かくて静かでした。これが過疎現象のもう一つの風景です。しかし、商店街の静けさと比べ、ここでは自動車産業が非常に発達していました。トヨタ、日産、ホンダ、ベンツ、BMW及び他の聞いたことのあるヨーロッパの有名なメーカーがここに拠点を設け、競争の激しさが見て取れました。

「今は車を運転してどこにでも行くことができるけれど、もう少し年を取って、車さえ運転できなくなった時が問題だわ」お母さんはとても冷静で、ただ明白な事実を話しているかのようでした。これこそが彼らに纏わりついている悩みでした。確かに、T家はスーパーへ行くにも車で45分の場所にありました。このような生活環境はお年寄りに優しくなく、引っ越しは必然的な選択肢となっていました。「もう少ししたら、もしかしたら数年後には高崎市に引っ越すかもしれないわ」口には出さなかったものの、たとえ生活が便利な都市に引っ越したとしても、その後の介護も問題であると思います。高齢化社会における老人介護の問題は、台湾であれ日本であれ、その深刻さは増しており、T夫妻の秘めた憂いは社会全体の縮図であると思いました。

短い間のお付き合いでしたが、私にとってこの誼みはとても大切なものです。夕食の時、お母さんが苑柔と私に言いました。「私達を日本のお父さん、お母さんだと思っていいわよ。あなたたちの今後の成長や大切な人と過ごす人生を見てみたいわ。あなたたちを日本から見守っているから」私はその時の

お父さん、お母さんの真剣な表情を忘れません。このようなお互いの感情を今後も保ち、彼らがずっと健康で、楽しく生活することを心から望んでいます。

ホストファミリーと別れた後、私達は群馬の様々な顔を体験しました。日本の小学校の教科書に載っているという富岡製糸場では、文化遺産の地域振興政策における重要性を目の当たりにしました。大門屋では達磨をどのように描くかを学びました（筆遣いは空行く雲や流れる水のようにでした）。最後は長い歴史を有する温泉旅館「轟」で懐石料理と露天風呂を満喫し、楽しい夜を過ごしました。群馬県観光国際協会 国際観光部長の心配りと全日程の随行（もちろんホームステイの時間は除く）に感謝致します。私達はみんな群馬を好きになりました。



三、学術の名目ではあるけれど…名古屋大学、立命館大学

学術面の日程は2つに分けることができます。一つは、日華議員懇談会、防衛省防衛研究所、研究開発戦略センターなどの行政機関及び研究機関の見学で、もう一つは、日本の有名大学の大学院生と学術討論を行うことです。つまり、今回の日程の中で、最もチャレンジングな部分—英語でのレポート発表です。

機構の見学の中で、個人的に最も貴重な経験だと思ったのは、日華議員懇談会座談会です。なぜなら、私は少し前に日中関係に関する授業で日華議員懇談会の歴史的背景、設立目的、台日関係に対する意義などの資料を読んでいたため、実際に彼らを訪問し、理解することができ、とても嬉しく思ったからです。また、もちろん親台議員は多ければ多いほど良いので、日華議員懇談会の規模が彼らの望んでいるように拡大することを願っています。

私達の今回の使命は、名古屋大学と立命館大学において英語でレポートの発表を執行することでした。これについては、特に私達を指導し、アドバイスを与えてくださった団長のK先生に感謝致します。先生は睡眠時間を犠牲にして、私達に発表のテクニックを教えてくださいました。発表の感想については、ただみんな素晴らしかったという

だけで、私も修士2年になったら、みんなと同じような実力を持ちたいと思います。

発表が終わった後は、楽しい時間の始まりです。名古屋大学と立命館大学は私達のために懇親会を設けてくださり、学術発表の緊張が解け、夕食時間こそが台日大学院生の真の交流時間でした。一度にあんなに沢山の日本の友人と知り合うことができ、本当に元が取れた感じがしました。それぞれの研究分野、国籍、学術に対する解釈は異なりますが、学術は単に架け橋に過ぎず、写真の上での打ち解けた笑顔が何よりも真実です。ホームステイ先で肉親の情(?)を得た後、今度は友情を得ることができ、今回の訪日研修は本当に愛に満ちていました。

四、京都の魅力—金閣寺、清水寺、両足院での座禅

初めての京都ではありませんでしたが、初めて金閣寺へ行き、初めての清水寺ではありませんでしたが、初めて和服を着て清水寺を散策しました。天気はとても良く、人も多かったのですが、なぜか金閣寺にいるのは日本の子供ばかりで、清水寺にいるのは中国語を喋る人ばかりでした。

古都の京都は輝かしい歴史、おごり高ぶった態度を持ち、群馬県富岡市が一生懸命になって手に入れた世界文化遺産が、京都には17件もあります。建仁寺両足院で座禅と精進料理を体験してみて、自然から生まれ、自然と融合し、本来の姿に戻ったような気持ちになりました。日本の仏教と



禅宗は密接な関係があります。座禅の時、コートを脱いでいるにもかかわらず、寒いとは感じず、目の前の緑あふれる庭園が心を落ち着かせてくれました。京都は長年の歳月を経て醸し出された濃厚な文化的魅力を持っており、たとえどんなに傲慢であっても、世界中の観光客はそれを喜んで受け入れます。

五、国と国から人と人との関係へ：日本に必ず会いに来ます！

2011年の終わりは、今回の研修のお蔭で非常に素晴らしいものとなりました。台湾と日本という2つの国の友好関係もこのような簡単な人と人との交流によって徐々に絆を深めていけるのかも知れません。今回の訪日研修によって、日本をより深く理解し、日本に対する好感度が高まりました。短い10日間の間に多くのことを経験することができました。訪日団のメンバーもみな面白く素晴らしい人達ばかりで、今後も連絡を取り続けたいと思います。

ずっと私達を引率してくださったK先生、Nさん、Aさん、通訳のT₁さんに感謝致します。本当にお疲れ様でした！

そして、台湾が好きで、私が慌てふためいていた時にそばにいた高校生の方皆さん、慌てていて名前を聞くことが出来なかったのですが、日本人の





温かさを確かに感じる事ができました。ありがとうございました！（このメッセージを見ることはできないと思いますが…）

平成 23 年度台湾大学院生訪日団

政治大学政治学科
謝濬帆



ここで筆を執ると、知らず知らずこの2週間のことが思い出されてきます。1ヵ月前になりかかる頃、思いがけず今回の訪日研修に参加できるとの通知を受けました。ちょうど修士課程に入る途中だったので、将来への不確実性が心の中で数多く渦巻いていました。そんな時に、交流協会がこの機会を下さいました。私は自らの過渡期とし

て、訪日団に連れられ日本再認識の旅に出ることになったのです。

飛行機が空港の滑走路に降り立つと、私には以前2回日本旅行をした経験と通関の時に交錯した様々な思いがありました。霧雨が降りしきる初日は、お台場で幕が開けました。時期がちょうどクリスマスと重なったので、ショッピングセンター全体が冬のメロディーにどっぷり酔いしていました。夜の歓迎会は交流協会と駐日台北経済文化代表事務所が、にぎやかで人の声と活気で溢れる居酒屋で開催して下さいました。歓迎会は美酒とグルメに囲まれて、「杯を挙げて名月を迎える」という風情で始まりました。その後は日台双方が織り成す、外交業務を離れた私的な友好と情熱を感じました。初日の夜は今回の旅行期間で気温が最低だったようですが、とても心打たれる夜でした。

翌日の日華議員懇談会は皆にとって印象的でした。日台間では外交面で相手国を承認していないので、私達の今回の旅行では、公の機関と何らかの接触を図るのは難しかったです。それに加えて台湾では議員に対してステレオタイプなイメージがあります。ですから団員達は互いに神妙な面持ちで参議院議員会館に到着しました。前日の夜にホテルのテレビを見て、訪問当日は国会会期の最終日だと知ったばかりでした。ですが私達と意見交換をした議員の方々にはそれでも親しげな表情を見せていただけました。それは私達が先ほど、国会議事堂の両脇にある日本式と洋式公園で日光浴をした時のような日の光の暖かさでした。日本の政府には今でも長い間に渡り私達に関心を持っている議員の方々がいらっしゃると知りました。私は子供の時にお年寄りから日本を賛美する言葉を聞いてきましたが、この時に思わずそれが頭に蘇りました。

群馬県での訪問は今回の旅行で驚嘆したことです。都市型の工業化社会に慣れた私にとって、そこは桃源郷のような場所でした。そしてホームス

テイ先の方々をお待ちしながら、絶えず深呼吸をしていました。研究発表をする時よりも緊張しているように見えたことでしょうか。ですが親しげなご婦人・節子さんには親近感と気品がありました。そして節子さんのご主人と一緒に英語と日本語で私達に挨拶し、この男子学生3人を引き連れて高崎市を離れ太田市の家へ向かってくださいました。節子さんは英語の先生ですが、しかし私に同行する仲間2人が流暢な日本語で話している時には、民族精神と日本人の誇りから車全体では私が良く知らない言葉で溢れかえってしまいました。幸い節子さんはたまに笑顔を振り向け、英語を差し挟んで話してくれ、言葉の壁を取り払っていただけました。

私達はステイ先の方々と一緒に、ほとんど群馬県の半分ぐらいを走り回りました。ご自宅裏庭でのミカン狩り体験から、縁切り寺（日本でかつて女性が結婚関係を終わらせたい時に来た、一時的な駆け込み寺）、スバル自動車会場（太田市はこの自動車の製造地）、クリスマスちょうちんフェスティバルまで、全てが驚嘆の連続でした。そしてその後、節子さんから晩にご自分の英語読書会で「忘年会」（恐らく台湾の「尾牙」のような、年末を振り返り、新年を見据える集い）があるから行かないかと誘われました。大体20数人の若者に



写真中央が筆者、座っている方が節子さん、そして両側は同行の仲間

更に私達が加わりレストラン丸ごととバーラウンジを借り切りました。夜は美酒の香りのように、皆の朗らかな笑い声の中で幕を閉じました。今回のホームステイ体験は、まるで「田舎に泊まろう」のようでしたが、チャレンジ精神あふれる日程でもありました。それは節子さんご主人が世界各地を旅行した写真をあちこちに貼った家から、節子さんがご主人と出会ってから恋をして結婚するまでの一つ一つの体験談を列車の中で話してくれたことまでを体験できたからです。生き生きと輝く歳月が過ぎ去ったとしても、その愛情はまだ光を放ち、いつまでも衰えることがないのでしょうか。

その翌日は伊香保温泉のある場所で楽しく過ごし心を安らげました。グルメー温泉ー絶景を楽しんでも、3人の男子学生と節子さん夫妻の楽しい一時は心からなかなか色褪せませんでした。

東京から名古屋へ向かう新幹線では、高速列車に乗りながら、これから発表を行う期待を胸に抱いていました。その途中、冬の雪で覆われた富士山の眺めが見られました。私達はスーツをびしっと着込んだ人々に紛れて名古屋に降り立ちました。名古屋大学は規模の大きさと格調の高さを誇る学びの場です。午後の発表を終えると、発表をした仲間達と私は厳格な態度で向き合いましたが、初めて海外で発表をした喜びに溢れていました。皆は考えを巡らせてその場ではっきりと理解できる英語で発表しているようでした。最後にはいっぱいのご馳走と名古屋の芳醇なビールを楽しみながら最初の学校訪問での学术交流を終えたのです。

京都は私が学生時代からぜひ行ってみたい町でした！今回私達は数日の滞在で、地元の立命館大学で学术交流が行えただけでなく、その中で見習うべきところをたくさん見聞きしました。その一つが日本の学生のプレゼンテーション作成能力です。日本の学生はプレゼンで文字情報以外の関連図面や特別なグラフを加えたりして、講演者のプレゼン内容を補足し、それが会場参加者の注

意を引いていました。

学術交流のほかには、京都それ自体が文化遺産でした。私達は金閣寺へ向かいました。奇抜な日本風の林、そして湖に金色に輝きたたずむ寺院を観に、世界各国と地元日本の観光客と学生で溢れかえっていました。そして和服を着て清水寺に立ちました。清水本堂の舞台と今年日本を代表する漢字「絆」が、リスの肌色のような茶色一枚一枚の紅葉に表現されていました。これほど日本独自の文化の趣と味わいのあるものはありませんでした。珍しく意外な体験として、京都初日の夜にあった自由時間のことをお話します。その晩は同行の友達数人と一緒に祇園を散策しようと約束しました。そこを歩いていると約800年の歴史を持つ建仁寺にたどり着きました。夜間で視界に問題があり、人々はいそいそと写真を撮ったらすぐに去って行きました。ですが京都での最終日にあった座禅体験は、ちょうど建仁寺内の両足院で行ったのであり、その奇遇さに思わず驚きほくそえんでしまいました。

今回の台湾大学院生訪日団ではたくさんの驚嘆があり、得たものも多かったです。日本精神は抽象的な文化概念ではなく、日常生活のあらゆる分野で形になっていました。レストランでのウェイターの笑顔と挨拶、バスに乗る前の運転手さんの

挨拶・・・マルイスーツ館では女性店員が私を目にするとネクタイを探してくれる時に白いワイシャツを持ってきました。ネクタイ一本一本をコーディネートして私に意見を聞いてきたのです。整然とした街では車の流れが途絶えませんがクラクションは鳴りません。私達は毎日さまざまな人・事・物から学び取ることがありました。大学院生として海外で学術研究を発表し、日本文化と伝統的な仏教芸術を体験し、関西・京都を巡り、そして相談中の生命哲学について通訳さんと対話—今回の訪日団は私のそんな夢を叶えてくれました。

私は、交流協会に感謝いたします。交流協会で心血を注いで私達に完璧な日程を作っていただいたので、少しの時間も無駄になりませんでした。訪問団に随行し、率いていただいたK先生、そして日程を手配しいつもお世話になったNさん、Aさん、そして通訳さんに感謝いたします。そして仲間の石君とは10日間の共同宿泊経験をし、彼から日本語や日本の風俗習慣についてたくさん教えてもらいました。更に、随行した愛すべき仲間達とは、一緒に夢のような10日間を過ごしました。そして最後に台湾と日本の両国で苦心された方々に感謝いたします。台湾921大震災と311東日本大震災では互いに助け合いの真心が見られました。そして私達両国に友情と途絶えることのない共鳴をもたらしてくれたのです。



下の写真は筆者と同行した仲間と清水本堂の外で撮影

